学力向上を図るための全体計画

令和3年度
多摩市立連光寺小学校

・日本国憲法
・教育基本法
・学習指導要領
・東京都教育委員会の教育目標
・多摩市教育委員会の教育目標

学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、生涯にわたり自ら学び考える力を身に付け、時代の変化に主体的に対応し、持続可能な社会の担い手として国際社会に貢献しうる心身ともに健やかな児童の育成を目指す。
◎考えてやりぬく子
○明るく思いやりのある子
○たくましくじょうぶな子

保護者の願い

・基礎的な学力を身に付けてほしい。
・よく考えて正しく判断できるようになってほしい。
・人や自然に対して思いやりの気持ちがもてるよう、心を育む教育を重視してほしい。
・健康でたくましい子どもになってほしい。

学校経営方針（学力向上の視点から）

指導に関わる具体的な取り組み

(1) 基礎学力の定着と分かって楽しい授業への工夫改善を継続する
・指導方法の工夫改善を常に行い、基礎学力の向上を図る。
・児童の自己評価、学習のふり返りによってメタ認知力向上と評価への活用を行う。
・教えることと、児童に考え工夫させることの両面から指導する。「どうして」の発問を増やし、児童の思考力、問題解決能力を向上させる。
・外部指導者の積極的な活用を図る。
・家庭学習を充実させる。（自主学習の推進・ミライシードなどICT機器の活用を推進）

(2) 生活科と総合的な学習の時間でESDの指導充実を図る
・カリキュラム・マネジメントを活用し、教科との横断的な指導を行う。
・地域の森林などの自然環境や文化を活かしたESDを実践し、活動意欲や思考力・判断力・表現力とメタ認知力の育成を図る。
・グローブ活動やシバヤギなどの動物飼育を活用して活動の充実を図る。

(3) 読書指導と情報教育を充実させる
・読字に着目し、朝読書や保護者による読み聞かせ等を活用して読書指導の充実を目指す。
・タブレットPCや、電子黒板を活用した授業を必要なところで行い、情報活用能力を向上させる。

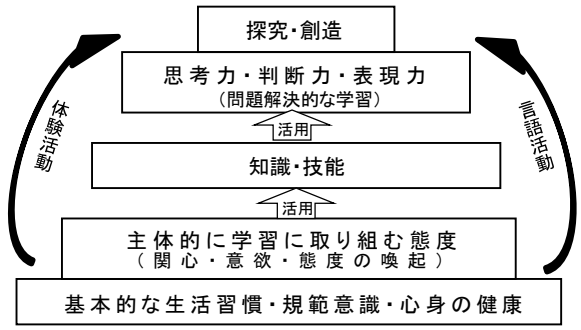
教科の指導の重点

・国や都の学力調査、日頃の学習活動から児童の実態を把握し、興味・関心を高める授業、問題解決の流れを活用した学習活動を展開する。特に各教科の見方・考え方を働かせた上で、生活科・総合的な学習の時間との横断的な学習によって、主体的・対話的で深い学びを実践する。そのためには、学習のねらいと共に振り返りを重視し、メタ認知力の向上を図る。

・基礎的・基本的な知識・技能を重視し、一人一人の児童に確実に身に付けさせる。始業前や家庭学習を活用した毎日の反復練習等確実な定着に向けた取組みを全学級で実施する。算数科では習熟度別指導ガイドラインに基づく少人数指導や東京ベーシックドリル、タブレット端末によるアプリ版「ミライシード」を用い、個に応じたきめ細やかな指導を実施し、基礎的・基本的な学力の定着・伸長を図る。また、地域未来塾による放課後及び長期休業日に実施する補習の取組みを通して、児童の学習意欲及び学力向上を図る。

本校における「確かな学力」

◎本校では、生涯にわたり学習する基盤を培うため以下の力を育成する。



生活科・総合的な学習の時間の重点

・地域学校協働活動推進員を活用して、地域の豊かな自然環境、国内の学校、専門家、障害のある人、高齢者、地域の人々、保護者等、様々な方とかかわりながら充実した体験活動と問題解決学習を実施し、地域への愛着を深めるとともに、環境保全意識を高め、持続可能な社会の形成に参画しようとする態度を育成する。
・スーパーESDカレンダーを基に教科とのつながりを考慮したカリキュラム・マネジメントを推進し、総合的な学習の時間と教科の学習内容を相互に深め合う。
・問題解決学習を活用したESDを実践し、持続可能な社会の担い手として必要な6つの力「関心・意欲ある行動力」「課題解決力」「協力」「発信力」「環境や社会への理解力」「学び方を身に付ける力」を育成する。

進路指導の重点

・児童一人一人の個性を大切にし、自己の個性や能力、適性を生かして生きようとする態度を育む。また、地域の人と交流する機会を通して、自己の人生を真摯に生きようとする意識やキャリアプランニング能力を育てる。
・幼保小、小中の連携を密にし、地域の教育力を生かす教育活動や、園児・児童・生徒の交流を実施し、主体的に自己の進路を考える力を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

◎各教科の指導計画の改善の視点を入れた見直し

①繰り返し学習の時間確保等による、基礎的・基本的事項の習得を徹底させる。

②問題解決型学習を展開し、知識・技能の活用、日常生活との関連を図った学習活動を重視する。

③発表の機会の増加や児童同士の関わり、ICT機器の効果的な活用など、言語活動の充実を図る授業を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実践する。

④課題を提出することを習慣化させ、徹底させる。

⑤朝学習や朝読書、休業中の補習的な学習の時間を確保する。

⑥児童の自己評価を取り入れ、児童が自己の成長を実感し、次の活動の意欲につなげるとともに、指導改善に活かす。

⑦授業改善とともに、家庭学習を充実させ、各学年とも4月の保護者会で家庭学習の取組みを保護者に周知し、基礎的・基本的な内容に加えて、自主学習への取り組み、ミライシードなどICT機器の活用を図る。

本校の児童の学力における実態

2月検証予定

◆全体的な様子
○素直で明るい。
○落ち着いて学習や生活に取り組むことができる。
○目標ややるべきことが決まると熱心に取り組める子が多い。
●自ら考え、主体的に行動することを苦手とする児童が多い。

◆学びに向かう力・人間性
○得意な学習に対する関心・意欲は高い。
●学習したことをまとめたり、日常生活に生かそうとすることが苦手である。
●学年が上がるに従い、自ら発表することを苦手とする児童が増えている。

◆思考力・判断力・表現力
○個別の情報を読み取ることはできる。
●いくつかの情報を読み取り、比較したり、総合的に判断したりすることが苦手である。
●与えられた複数の要因・情報から必要な情報を取り出し、多面的な視点から考察し、自分の言葉でまとめ、表現することが苦手である。
●図や式で考え方を表現したり、根拠を基に考えを表現、解決したりすることが苦手である。

◆知識・技能
○相手や目的に意識し、それに応じて工夫して書くことができている。
○観察、実験等の器具・用具の基本的な使い方は理解している。
●基礎・基本の定着が十分でない児童がいる。
●既習漢字の活用や文と文のつながり方、文末表現の使い方に注意して、よりよい表現にすることが苦手である。
●複雑な資料や文章問題の読み取り、解決、要旨の把握などが苦手である。
●複数の条件が重なると、基本を応用できなくなることが多い。
●日常生活であまり使わない漢字の読み書きや語句の意味、関係性への理解が十分でない児童がいる。
●学習した知識と生活体験とを結び付けて考えることが苦手なため、既習内容を活用できていない児童が多い。